

## 干潟内に見られた多くのイシガレイ稚魚

### ■干潟内にも多く見られたイシガレイの稚魚

先月に引き続き、イシガレイ稚魚を採集し成長の様子を調査した。採集した稚魚は全長を測定した後全て放流している。2011年～2013年は干潟内で数多くの稚魚が採集されたが、2014, 2015年はわずかの数しか干潟内で採集することは出来なかった。しかし、今回の調査では七北田川河口域、蒲生干潟内の両方で数多くの稚魚を採集することができた。

昨年まで干潟内に稚魚が多く見られない理由の一つとして、動流堤にもうけられた通水部分の構造を考えていた。Fig. 1は2015年8月の導流堤通水部分である。七北田川と通水部分との間に落差があり、底は石である。Fig. 2は今回の調査で撮影した通水部分であるが砂が堆積したことにより通水部分の落差がなくなり、底も砂となっている。水の流れも緩やかで、遊泳力の乏しい稚魚であっても干潟内への移動は困難ではないと思われる。昨年の9月に大量の砂が堆積したことが生物にどのような影響を与えるか危惧していたが、イシガレイの稚魚にはよい影響を与えたように思われる。



Fig.1 2015年8月の通水部分



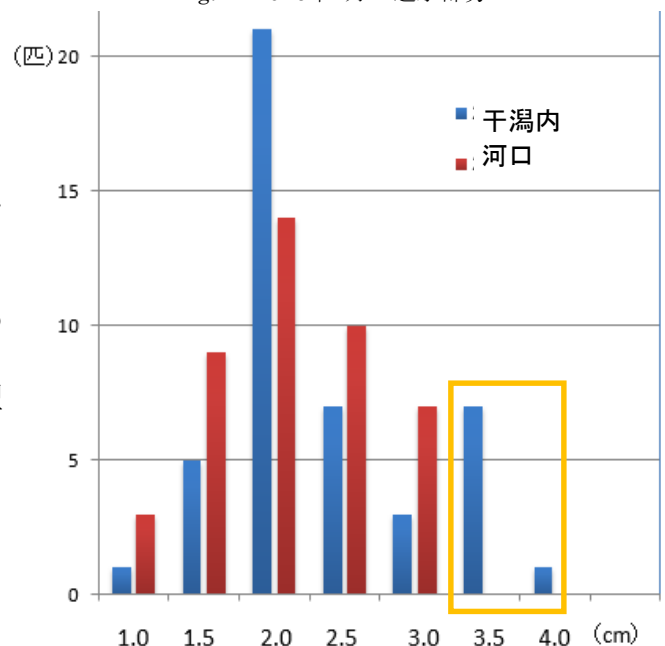
Fig.2 2016年4月の通水部分

### ■稚魚の大きさ

Fig. 3は河口と干潟内の稚魚の大きさと採集数を表している。干潟内では45匹、河口では43匹採集した。黄線で囲んだように、干潟内では河口域では見られなかった大きさの個体が採集されている。Table. 1は採集した稚魚の平均全長であるが、黄線で囲んだ3.5cmと4cmの個体（8匹）を除外すると干潟内と河口域の大きさには差は見られない。干潟内と河口域の大きさの差は、干潟内でより早く成長するのではなく、大型の個体が干潟内に入るからではないだろうか。

	河口域	干潟内	干潟内 3.5cm以上を除く
平均全長	2.10cm	2.34cm	2.08cm

(Table.1 稚魚の平均全長)



(Fig.3 河口と干潟内の稚魚の大きさと採集数)